



ふじみ野市長 高畑 博氏

市長のメッセージ

ふじみ野市は、この10月で合併15周年の節目を迎えました。これまで、合併の効果を最大限に引き出しながら各種施策を推進し、着実に発展を遂げてきました。

現在は、市民の文化活動の環境整備及び機会の充実を図るため、東西文化施設の整備事業に着手し、令和5年の完成を目指し取り組んでおります。また、まちぐるみで子どもたちを見守り育む体制を構築するため、「こどもにやさしいまちづくり条例」の制定に向けた取り組みにも着手いたしました。

令和の時代も、市民の皆様が住み良さを実感し、「夢と希望にあふれる故郷 ふじみ野」の実現に向けて、市民の皆様と共にまちづくりを進めてまいります。

はじめに

ふじみ野市は都心から約30km、埼玉県南部に位置し、東は富士見市、南は三芳町、西と北は川越市に接している、面積14.64km²、人口約11万人の市である。平成17年10月に上福岡市と大井町がひとつとなり、ふじみ野市が誕生した。

交通面は国道254号(川越街道)が市の中央を南北に走り、東武東上線が川越街道に並行して走り、市内には上福岡駅が設けられている。その他、国道254号バイパスが市の北部を、関越自動車道が市の西部を走っているなど、交通利便性が高い。市内には、新河岸川しんがしがわが流れ、雑木林がところどころに見られるなど、豊かな自然も残っている。

新河岸川は江戸時代初期から昭和初期まで約300年間、江戸と川越を結ぶ舟運の路として発達し、物資輸送に重要な役割を果たしていた。

この舟運は、寛永15年(1638年)に焼失した川越の仙波東照宮の再建資材を運んだのが始まりとされている。その後、近隣農村の農業生産の発展にともない、新河岸川沿岸には多くの河岸場が設けられ、当市にも福岡河岸が設けられた。河岸場周辺は、近隣農村と江戸とを結ぶ経済流通の中継地として大変賑わったという。当時福岡河岸で船問屋として繁栄した福田屋の建物は福岡河岸記念館(表紙写真)として整備され、往時の様子をうかがい知ることができる。舟運は大正3年(1914年)に新河岸川と平行して東上鉄道(現、東武東上線)が開通すると衰退に向かった。

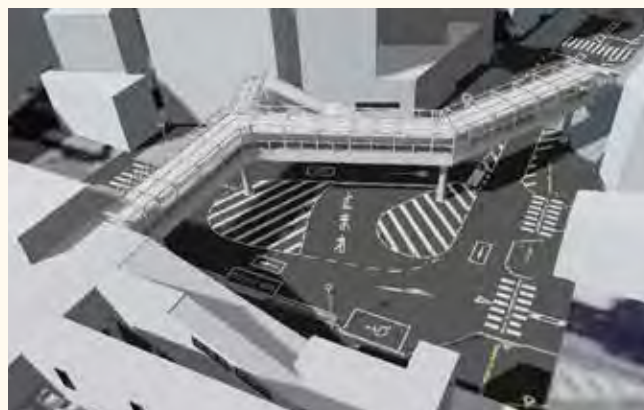
時代の変化に合わせ、生まれ変わる街

市は昭和30年代に再び活気づいた。埼玉県内の大規模団地としては松原団地や武里団地が有名であるが、両団地よりも数年早く上福岡駅近くに2つの大規模な団地が誕生し、人口は急増した。

2つの団地は、開設から半世紀近くが経過した2000年前後に、周辺の再開発事業に併せて建て替えが進んだ。新しく生まれ変わった街には多くの若い人が市外からも移り住んでいる。

平成20年6月、東武東上線は東京メトロ有楽町線に加え、副都心線との直通運転を開始し、新木場方面のほか新宿、渋谷方面へも乗り換えなしで行くことができるようになり、東京への通勤・通学利便性が格段に向上した。さらに、平成25年3月には、横浜方面へも乗り換えなしで行けるようになった。

上福岡駅の乗降客数は1日平均56,400人にのぼり、東上線38駅中10番目に多い(令和元年度)。通勤・通学のために利用する市民のほか、市外から通



上福岡駅東口駅前広場の整備後の完成予想図

ふじみ野市概要

| | |
|------------------|-----------------------|
| 人口(2020年10月1日現在) | 114,558人 |
| 世帯数(同上) | 53,000世帯 |
| 平均年齢(同上) | 45.5歳 |
| 面積 | 14.64 km ² |
| 製造業事業所数(工業統計) | 111所 |
| 製造品出荷額等(同上) | 1,220.6億円 |
| 卸・小売業事業所数(商業統計) | 505店 |
| 商品販売額(同上) | 987.3億円 |
| 公共下水道普及率 | 93.8% |
| 舗装率 | 87.6% |

資料:「令和元年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 東武東上線 上福岡駅
- 関越自動車道 川越ICから市役所まで約10km

学する高校生も多く、特に通勤・通学時間帯の駅東口周辺道路は歩行者と車両が錯綜する。こうした状況を改善し、歩行者の安全確保を最優先とするため、市では、橋上駅舎からメインストリートへの横断歩道橋の設置による上福岡駅東口駅前広場の整備を進めている。令和3年7月には完成予定で、上福岡駅はより利用しやすくなるだろう。

スポーツ・文化施設の整備

市では、平成27年に元気・健康都市宣言を行い、スポーツは体の健康を保つために必要なものとして、スポーツ施設や運動公園の整備を実施してきた。当初計画した施設の整備は令和元年度に終了し、引き続き、心の健康を保つ文化の分野に注力している。

令和元年度に策定した「文化施設基本構想・基本計画」に基づき、老朽化した公民館やホールの大規模改修、改築などが進められており、令和5年には東西2つの文化施設が揃い、令和7年には新たな市民ホールがオープンする予定だ。これらの施設は、小さな子どもから高齢者までが利用しやすい、市民の文化芸術活動、学習活動などの拠点として賑わいを見せるだろう。

家庭ごみの排出の少ない市

ふじみ野市は市民一人当たりの家庭ごみ排出量が少ない市となっている。埼玉県内の市としては5年

連続で1位となっており、町村を含めても、平成30年度は滑川町に続いて2位となっている。市では、環境センターの施設見学や、環境学習講座・イベントの開催など、市民に対する環境意識を高める機会を豊富に提供しているほか、様々な環境に関する施策を打ち出している。

ごみの収集予定を知らせてくれるアラート機能や、捨て方に迷った時に参照できる機能のついた、ごみ分別アプリを早くに導入したほか、土中のバクテリアの力で生ごみを消す、生ゴミ処理容器「ベランダ de キューロ」の普及促進にも早くから取り組んでいる。

「家庭ごみ排出量の少ない市 5年連続県内1位」は、これらの施策が実を結んだ結果と言えるが、今後を見据え、次代を担う子どもたちへの働きかけにも熱心だ。市内の公立小学生に対しては、環境に関するトピックスを掲載している定期広報誌を全員に配布している。これらの取り組みにより、今後も記録の更新が期待される。

(太田富雄)



生ゴミ処理容器づくりのイベントに参加する親子